

令和5年度 全国学力・学習状況調査について

全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の検証・改善や、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で、令和5年4月18日に第3学年生徒を対象として国語・数学・英語で実施されました。以下はその結果をまとめたものです。

1 本校の生徒の学力状況の概観

今年度の本校の全国学力・学習状況調査では、国語・数学・英語ともに、全国の平均正答率を上回る結果となりました。学習内容の基礎・基本を着実に定着させることについては、授業における問題練習や、家庭学習の推進など、日常の学習指導の取組について、一定の成果があったものと捉えています。

しかし、成果となっている項目の中にも、全道・全国平均は上回っているものの、校内的に見ると、「思考・判断・表現」を問う問題には、一定数の誤答や無解答があり、苦手感を抱いている生徒が存在することも事実です。

今後は更に、個々の学習状況を的確に把握しつつ、「物事を多角的に捉え、学びを深めることができる生徒の育成」を目指し、「深い学び」を体感できる授業や、「生徒の発問から展開していく」授業となるよう改善に努め、一層の学力の向上に努めてまいります。

2 各科目の分析結果と課題及び改善の方策

【国語】 全道平均・全国平均を大きく上回っている

〈成果〉

- 知識・技能を問う問題の正答率が高い。
 - ・語句に対する理解があること
 - ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すこと
- 思考・判断・表現を問う問題の正答率が高い。
 - ・読んだ文章を参考にして、知識や経験に結びつけ表現すること
 - ・自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書くこと

〈課題〉

- ▲文章の構成や展開、表現の効果や意図について考えること

＜改善の方策（国語）＞

- 読んだことに基づいて自分の考えを形成し、作文などで表現・交流する学習を継続して行う。その際、以下の3つのポイントを大切にする。
 - ①読み手・書き手の立場に立つ機会を増やす。
 - ②表現の効果や意図を振り返る時間を作る。
 - ③伝えようとしていることが十分に書き表されているか吟味する活動を充実させる
- 毎時間、漢字・慣用句・四字熟語・故事成語などを扱い、語彙を増やす学習を行う。

【数学】 全道平均・全国平均を大きく上回っている

〈成果〉

- 知識・技能を問う問題の正答率が高い。
 - ・「数と式」「図形」「関数」「データの活用」全領域の理解
- 思考・判断・表現を問う問題の正答率が高い。
 - ・目的に応じて式を変形し、事柄が成り立つ理由を説明すること
 - ・データの傾向を分析し、判断の理由を数学的に説明すること

〈課題〉

- ▲図形領域の基本的用語や意味、事柄が成り立つことを証明すること。

＜改善の方策（数学）＞

- 復習プリントを継続して行うとともに、振り返りの時間を設定し、基礎・基本の定着を図る。
- 授業において説明する場面を位置付け、説明の場面（「事柄・事実の説明」、「方法や手順の説明」、「理由の説明」）に応じた指導を行う。
特に、図形の証明場面においては、例えば、①口頭で説明する、②穴埋め問題を解く、③記述形式で証明するなどの段階を経た指導を行う。
- 教科部会を定期的に行い、授業交流や定期テストの交流からの授業改善、「個別最適な学びと協働的な学び」や「ICTの効果的な活用」の視点から授業改善の取組を進めていく。

【英語】 全道平均・全国平均を上回っている。

〈成果〉

- 知識・技能を問う問題の正答率が高い。
 - ・日常的な会話が成り立つように、適切な形に変えること
 - ・文法事項を用いて正確に書くこと
- 思考・判断・表現を問う問題の正答率が高い。
 - ・話し手や書き手の主旨や要点を理解すること
 - ・必要な情報を読み取ることができること

〈課題〉

- ▲「読むこと」の領域において、文章の中心となる要点や主旨を理解することはできるが、文全体の概要を捉えることに課題が見られる。

＜改善の方策（英語）＞

- よいところを継続するための手立てを講じる。
 - ①毎回の授業で、会話を継続し、ミスを正しく言い直す練習する。
 - ②英作文やエッセイの活動を継続し、正確な書き方を理解する。
 - ③「書くこと」「話すこと」のアウトプットの機会を設定する。
- 文章を読む活動を取り入れていく。
- 文章全体の構成や文と文のつながりを意識させた「読むこと」「書くこと」の活動を行う。

【全教科を通じて取り組むこと】

- 知識・技能の確実な定着
 - ①单元ごとに振り返りの時間を設定し、既習事項の学び直しをする。
 - ②復習プリントやミニテストなど、毎回の授業で繰り返しの練習をする。
- 思考・判断・表現を伸ばす
 - ①自分の考えをまとめ、説明したり、表現する活動を設定する。
 - ②自分の考えを導くまでの過程や理由について考えさせる場面を設定する。
- 学習スタイルの確立
 - ①「前時の復習→課題設定→解決（個・グループ）→まとめ→定着」のような課題解決学習の授業スタイルを確立していく。
 - ②話し合い活動のルールやスキルを共有し、コミュニケーション能力が高まる環境や雰囲気づくりを行う。
- 更なる学力向上を目指して
 - ①授業アンケートや学校評価など客観的な資料を分析し、改善点を明確にし、学期ごとの短いスパンで見直しを進めていく。

3 生徒質問紙の分析結果と課題及び改善の方策

〈全道・全国の割合よりも高い〉

- 自分にはよいところがある。
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれている。
- 将来の夢や目標を持っている。
- いじめはどんな理由があってもいけない。
- 人の役に立つ人間になりたい。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい。
- 新聞を読んでいる。
- 読書は好き。
- 国語・数学・英語ともに、「授業の内容がよく分かる」「将来の役に立つ」と感じている。

〈全道・全国の割合よりも低い〉

- ▲自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する。
- ▲1・2年のとき受けた授業で、PC、タブレットなどのICT機器を、どの程度使ったか。
- ▲学習の中で、タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか。

〈改善の方策（生徒質問紙）〉

- 生徒指導の実践上の視点を生かした教育活動を推進していく。
- 校内のICT委員会を中心として、職員のICT機器の活用スキルを向上させ、授業実践に生かす。
- 校内研究において、ICT機器の効果的な活用について研修を行う。